読者投稿

先日はありがとうございました。

はじめて林先生にお目にかかった頃、真っ暗な闇の中をひとりぼっちで歩いているような毎日でした。

ハガキに「助かりますか」と書きました。

先生から「助かりますよ」とお葉書をいただきました。

それからはご迷惑を顧みずお伺いしました。

奥様、綾子さまのおしゃべりをお聞きすることが楽しみでした。

いつしか心に小さな灯りがともりました。

助かるとはどういう事だろうと思いました。

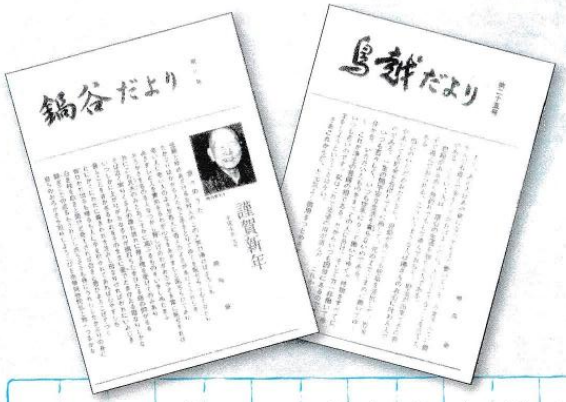
だんだんお伺いすることが少なくなり林先生はお亡くなりになり、綾子さまはふるさとへ帰られました。

いまでも自分のことを言葉にどうあらわしていいのかわかりません。

私は鬼です。難しいことは解りません。

仏法を聞き続ければ「助かりますよ」という先生のお言葉をただ有難くいただいています。

『歎異抄』第一章に救われています。



これは松任支部の会員様から届いたお便りです。

了解を得て投稿させていただきました。

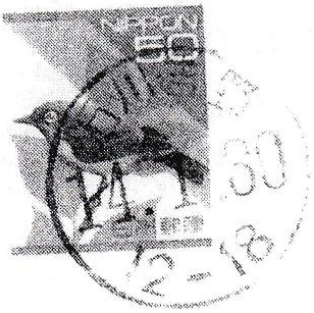
文中の「林先生」とは、林暁宇先生のことです。明達寺の暁烏敏先生のもとに二十年余り、その後、小豆島、札幌、晩年には、石川県白山市鳥越、そして能美市鍋谷町と移り住みながら、多くの方とのご縁を重ねていかれた真宗大谷派の僧侶です。

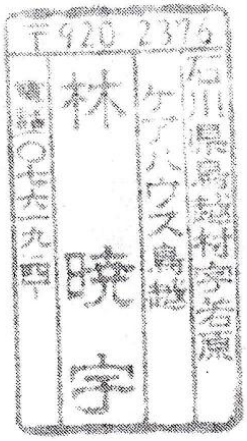
『ほんとうにしたいことがあったらそれをやれ―林暁宇書簡集』には、

〝必ずたすかりますよ〟

とだけ書かれた葉書が掲載されていました。仏縁の不思議、有難さに感動しています。

松任支部　月輪　満子





『ほんとうにしたいことがあったらそれをやれ　林暁宇書簡集』23 頁

前頁『花すみれ』大谷婦人会報 2025 年 3 月号「読者投稿」　松任支部　月輪満子前委員長